

## ア 廃棄物の受入状況

### 〔受入量〕

資源循環工場の全民間リサイクル施設が、平成18年7月から平成19年6月までの一年間に受け入れた廃棄物の総量は、171,032トンとなっています。

廃棄物の内訳としては、産業廃棄物が約75%、一般廃棄物が約25%となっています。

また、受け入れた廃棄物の県内からの受入量の割合は、約47%となっています。

### 【受入量】 (平成18年7月から平成19年6月まで)

|    | 産業廃棄物           | 一般廃棄物           | 計               |
|----|-----------------|-----------------|-----------------|
| 計  | 128,658         | 42,374          | 171,032         |
| 県内 | 54,823<br>(43%) | 25,507<br>(60%) | 80,330<br>(47%) |
| 県外 | 73,835<br>(57%) | 16,867<br>(40%) | 90,702<br>(53%) |

### 〔受入能力との比較〕

資源循環工場全体の受入能力は、年間70万トンとなっています。この受入能力に対する操業後1年間の受入量(171,032ト)の割合は、24%となります。

一般に、新たに参入した事業については、操業が軌道にのるまでに、数年程度を要するものと言われています。

資源循環工場についても、各事業者の事業計画などによれば、軌道に乗るまでに、概ね三年間程度を見込んでおり、受入量についても、段階的に上昇させていく計画となっています。

現段階では、まだ十分に受け入れ余力がある施設も多く、今後の受け入れ増が期待されます。

## イ リサイクル促進への効果

### 〔再資源化〕

資源循環工場におけるリサイクルによって、操業後1年間に、29,064トンのリサイクル製品が生産されています。

一方でリサイクル過程で発生する残渣などとして、10,745トンが廃棄処理されています。

資源循環工場においては、再資源化率を、「廃棄物の受入量に対する、受入量から廃棄処理された量を除いた量の割合」と定義しており、操業後1年間の再資源化率の平均は93%となります。これは、当初の計画時点での再資源化率の値のとおりとなっています。